



# 園だより

平成29年4月7日・8日

佛教大学附属幼稚園

## あしおと

園長 藤堂俊英

幼稚園の前に広がる田畑をぬって流れる小川を見ていると、「春の小川はさらさらゆくよ、岸のすみれやれんげの花に・・・」という歌を思い出します。「スプリング」ということばには、春のほかに泉とか弾力とか跳躍という意味もあります。春は冬を乗り越えたいのちが弾けるように、それぞれの成長の流れを作り始める季節です。いよいよ新学期がスタートします。本園はのびのびと自分を伸ばす育自と、お友だちと共に仲よく育つ共育の二つの育を大切にしています。お子さんたちがお友だちとの園生活の中で、明るく元気に共に育つ流れをそれぞれに作りながら過ごして行けるよう見守って行きたいと思います。

最初のお誕生日を迎えようとする子どもが一人歩きをするのを待ちわびる、これもひと昔前の歌に「春よ来い早く来い、あるきはじめてみいちゃんが、赤い鼻緒のじょじょはいて、おんもへ出たいと待っている」というのがあります。動物行動学者デズモンド・モリスの『マン・ウォッチング』によれば、二足歩行をする私たちは生涯に平均して1000万回以上、地面を踏みしめながら歩いているのだそうです。その歩きぶりにもいろいろあるとして、ゆったり歩き・せかせか歩き・とぼとぼ歩き・威張り歩き・よたよた歩き・小躍り歩き・こっそり歩き・つまさき歩き・気取り歩き・大股歩き・小刻み歩きなど36種があげられています。

幼稚園にも子どもたちのさまざまな足音が溢れていますが、つぎに紹介するのは武鹿悦子さんの「おと」という詩です。

アリのあしおと どんなおと？ きっと ケラならしってるね  
はながさくおと ひらくおと きっと ちょうにはきこえるね  
ちょうのとぶおと はねのおと きっと くさにはきこえるね  
くさのでるおと のびるおと かぜがふくおと はしるおと  
あめのふるおと やんだ おと どんなしずかなところにも  
しずかにしずかに おとはある とくとく心音 うちゅうおと  
だれかが どこかでうたってる

樹に聴診器をあてれば樹の心音ともいえる水を吸い上げる音が聞こえてきます。バード・ウォッチングの集音機を使えばレーザーからは会話の内容は分かりませんが、小鳥たちのにぎやかなおしゃべりが聞こえてきます。地上を歩くアリさんにもきっと足音はあるのですが、残念ながら聞こえてきません。人の足音も背負っているその日その日の気持ちの重さによって違っているにちがいありません。そのちがいを聞き分けることができれば、私たちのくらしはもっと穏やかなものになるにちがいありません。

子どもたちがまだ日の浅い集団生活の中で、小さな柔らかな心に背負う気持ちの重さは大人以上に日々違っているにちがいありません。私たちは子どもたちのそのようなこころの音とあし音に耳を傾けながら寄り添って行きたいと思います。